

かつて、dysplasia(異形成)と癌の鑑別診断は内視鏡的には困難な部分があり、ヨード不染部を見つけては生検病理診断にゆだねてきた。SCCの診断をいただければEMR/ESDを施行し、mild dysplasiaやmoderate dysplasiaの病理診断をいただければ経過観察としてきた。臨床的にはこれで一件落着いていた。

しかし近年、拡大内視鏡や超・拡大内視鏡の登場により、内視鏡的異型度診断がある程度可能ではないかとの議論が起こり、扁平上皮の境界病変における異型度診断の話題が再燃した。

一方、病理学も、Vienna分類、WHO分類と国際分類の提唱がなされた。下田序説におけるdysplasiaの定義と問題提起から始まり、渡辺論文、大倉論文では病理の最新の考え方が提示された。dysplasiaからintraepithelial neoplasiaへと概念が展開されるようである。河内論文では遺伝

子異常に踏み込んだ病理診断学が提示された。一方、門馬論文、井上論文では内視鏡による臨床の立場からdysplasiaの追求がなされ、“内視鏡的異型度診断”なる言葉も登場した。

病理医と臨床医を交えた症例検討を拝見すると、境界病変においては、病理専門医の間でもinter-observer variationが大きく存在する。非腫瘍(Vienna C1)から浸潤癌(Vienna C5-1)の確診まで意見が相違することもあり、境界病変の病理診断がいかに困難であるかを実感する。今後、このような境界病変では、経時的变化の情報が内視鏡医から病理医に提供されることも重要であり、内視鏡医と病理医のさらなる連携が期待される。

本号は、2007年現在における食道扁平上皮dysplasiaに対する渾身のレポートである。しばらくの間dysplasiaの座右の書となることを期待してやまない。

# 胃と腸

3月号(第42巻・第3号) 予告

発売予定  
定 価

3月25日  
2,625円

## 主題／大腸鋸歯状病変の発育進展と診断・取り扱い

|            |                                                     |                                                |         |
|------------|-----------------------------------------------------|------------------------------------------------|---------|
| 序 説<br>主 題 | 大腸鋸歯状病変—歴史的流れと現状の問題点                                | いわき市立総合磐城共立病院                                  | 樋 渡 信 夫 |
|            | 大腸鋸歯状病変の病理診断                                        | 新潟大学大学院・分子・診断病理学                               | 味岡 洋一・他 |
|            | 大腸鋸歯状腺腫の病理診断                                        | 東京慈恵会医科大学・病理学                                  | 池上 雅博・他 |
|            | 大腸鋸歯状ポリープの分類・診断と発育進展                                | 癌研究会癌研究所・病理部                                   | 加藤 洋・他  |
|            | 大腸鋸歯状腺腫の組織発生                                        | 岩手医科大学医学部・臨床病理                                 | 中村 真一・他 |
|            | 大腸鋸歯状腺腫と過形成性ポリープの癌化                                 | 福岡大学筑紫病院・病理部                                   | 原岡 誠司・他 |
|            | 鋸歯状病変由来の大腸癌(“serrated carcinoma”)の<br>頻度とその臨床病理学的特徴 | 九州大学大学院・形態機能病理学                                | 八尾 隆史・他 |
|            | 大腸鋸歯状病変の内視鏡診断                                       | 国立がんセンター中央病院・内視鏡部                              | 池原 久朝・他 |
|            | 大腸鋸歯状病変の内視鏡診断                                       | 広島大学病院・光学医療診療部                                 | 岡 志郎・他  |
|            | 大腸鋸歯状病変の臨床的取り扱い—私はこう考える                             |                                                |         |
| 主題症例       | 15か月の間に著明な形態変化を来し吸収上皮への<br>分化を認めた直腸鋸歯状腺腫の1例         | 齊 藤 裕 輔／樫田 博史・他／渡邊 真・他／鶴田 修・他／小 林 広 幸          |         |
|            | S状結腸表面型 serrated adenoma に合併した<br>粘膜内癌の1例           | 佐久総合病院・胃腸科 堀田 欣一・他<br>藤田保健衛生大学医学部・消化管内科 渡邊 真・他 |         |

## 胃と腸 (第42巻 第2号)

編 集 早期胃癌研究会

発 行 株式会社 医学書院

代 表 者 金原 優

〒113-8719 東京都文京区本郷 5-24-3

☎ 本誌編集室直通 (03) 3817-5714

FAX (03) 3815-7802 / 3815-7982

E-mail: itc@igaku-shoin.co.jp

http://www.igaku-shoin.co.jp/mag/itochou/

2007年2月25日発行(毎月25日発行)

1部定価 2,625円(本体2,500円+税5%)

2007年年ざめ予約講読料 36,410円

(増刊号 5,985円を含む13冊)(送料弊社負担)

☎ 販売部直通 (03) 3817-5659

振替口座 00170-9-96693

印 刷 所 永和印刷(株) ☎ (03) 3813-5001

広告取扱 文 栄 社 ☎ (03) 3814-8541

・早期胃癌研究会は、当研究会、早期胃癌検診協会およびエーザイ株式会社の三者の共催で行われている。

・Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 5-24-3 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo © 2007, Printed in Japan.

・本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)医学書院が保有します。

・JCLIS < (株)日本著作出版権管理システム委託出版物 >

本誌の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に(株)日本著作出版権管理システム(電話 03-3817-5670, FAX 03-3815-8199)の許諾を得てください。

・医学書院ホームページ(インターネット) <http://www.igaku-shoin.co.jp>

(担当)天野・山中・今田・小松原